

ボツワナ共和国月報(2022年4月)

主な出来事

【COVID-19】

- 感染者数(第4波は収束しつつある)

【内政】

- 地方補欠選挙(ハバロネ市内)で野党連合が与党に勝利
- ボツワナ政府、カーマ前大統領他を起訴
- 内閣改造

【外政】

- ニュシ・モザンビーク大統領のボツワナ訪問
- マシシ大統領の南アフリカ訪問

【SADC】

- SADC政治・防衛・安全保障オーガン・トロイカ臨時首脳会合の開催

【経済】

- カーロウェ・ダイヤモンド鉱山の拡張
- 3月の年間消費者物価指数上昇率は10.0%
- ポンタ・テコバニン鉄道プロジェクト

【COVID-19】

○感染者数

オミクロン株流行により第4波が到来し、客年12月中旬より感染者数が急増したが、3月に入り収束しつつある。4月(4月6日から27日まで)の一日平均感染者数は11名。なお、ボツワナは、4月1日より、日本政府の感染症危険情報レベル3(渡航は止めてください。(渡航中止勧告))からレベル2(「不要不急の渡航はやめてください。」)に引き下げられた。

【内政】

○地方補欠選挙(ハバロネ市内)で野党連合が与党に勝利

9日、ハバロネ市南部のボピリマ区で補欠選挙が実施され、野党連合民主改革のためのアンブレラ(UDC)に所属するマンキ・セケテ候補が当選した。本選挙前は、与党BDPが同選挙区を保持していた。マシシ大統領が同選挙区の有権者の自宅を訪問して投票を呼びかけるなど行ったが、結果は与党の敗北となった。

○ボツワナ政府、カーマ前大統領他を起訴

19日、カーマ前大統領が違法武器等の所持の容疑で治安判事裁判所に起訴された。カーマ前大統領に対しては、14の容疑がかけられた。21日、同裁判所にて初公判が行われたが、同前大統領は欠席したため、6月6日に延期された。カーマ前大統領

領以外に、アイザック・コシ情報保安局(DIS)局長、キアベツツェ・マコペ警察庁長及びヴィクター・パレディ青少年地位向上スポーツ文化開発省副事務次官の計4名が起訴された。

○内閣改造

21日、マシシ大統領は、いかなる時であっても毅然とした態度で国家に課された挑戦に挑むべきとして、2019年に国民に約束した公約を実現するために一層邁進していくと決意を表明し、憲法内で規定される内閣の「合理化」を実施していく旨発表した。今般の発表で、新たに2つの省(司法及びアントレプレナーシップ)が設置され、一部の省(国家・移民・ジェンダー省等)が他省(青少年地位向上スポーツ文化開発省等)に組み込まれた。省の数に変更はない。

【外政】

○ニュシ・モザンビーク大統領のボツワナ訪問

13日、ハボロネにて、ボツワナ及びモザンビーク間の協力に係る合同常設委員会(JPCC)が開催され、ニュシ・モザンビーク大統領及びマシシ大統領は、農業、防衛、司法等における協力につき協議した。また両者は、今後強力を強化すべき案件として、ジンバブエ及びボツワナを東アフリカ市場へと繋ぐ、貨物及び旅客輸送を目的とした鉄道建設計画をあげ、マシシ大統領は再度同計画へのコミットメントを表明した。また同委員会にて、冶金、鉱業等にかかる覚書、石油公社間の覚書、電力公社間の電力販売契約等が署名された。

○マシシ大統領の南アフリカ訪問

22日、プレトリアにて、ボツワナ及び南アフリカ間の二国間国家委員会(BNC)が開催された。BNCに出席したマシシ大統領及びラマポーザ南アフリカ大統領は、これまでに両国間で署名が行われた40の覚書の早期実施が必要である旨強調した。また、ロシア及びウクライナの国連決議に関し両首脳は、両国が投票態度を同調させたことに満足の意を表した。

【SADC】

○SADC政治・防衛・安全保障オーガン・トロイカ臨時首脳会合の開催

12日、SADC政治・防衛・安全保障オーガン・トロイカ臨時首脳会合がオンライン形式にて開催され、南アフリカ、ナミビア、アンゴラ等の大統領が出席した。首脳会合は、SAMIMに対し、モザンビーク政府と連携し、カーボデルガード州における包括的復興及び開発計画の実施を指示した。

【経済】

○カーロウェ・ダイヤモンド鉱山の拡張

4日、マシシ大統領出席の下、カーロウェ鉱山拡張プロジェクト起工式が、Letlhakane 村で開催された。このプロジェクトによって、850 人の雇用が創出されるとともに、同鉱山の寿命は 2046 年まで延長される。

○3月の年間消費者物価指数上昇率は 10.0%

ボツワナにおける2月の年間消費者物価上昇率は、前月から 0.6%減の 10.0%となったが、今年に入り3か月連続して二桁の上昇率となった。同月の消費者物価の上昇は、運輸、続いて住宅・水道・電気・ガス・その他燃料、食品・非アルコール飲料、及び雑多な財・サービスとなっている。

○ポンタ・テコバニン鉄道プロジェクト

セホコ運輸通信大臣は、自国と隣国ジンバブエを結ぶポンタ・テコバニン鉄道(旅客・貨物)プロジェクト実施に向け、事前事業化調査(F/S)を実施していることを明らかにした。F/S では、環境評価や社会的影響に始まり、プロジェクトの重要な要素や、成功に必要な技術について、事前に体系的に評価することが含まれている。同プロジェクトは、PPP による総事業費 600 百万米ドル、距離約 2000km のプロジェクトになる見込みである。